

研究分野紹介

中山 徳良

○教えていること

産業組織論

産業組織論は、市場の構造と企業の行動との相互の関係を、主にミクロ経済学を用いて考える分野である。たとえば、製品差別化を考えてみよう、製品差別化の程度が高い市場には企業は新規に参入しにくいであろう。そのため、企業は競争を避け、利潤を得るための一つの戦略として製品差別化を行うことが考えられる。また、産業組織論は、市場の構造や企業の行動が消費者に良くない結果をもたらす場合に、政府が行う政策について考える分野でもある。たとえば、鉄道の運賃は事業者が勝手に決められるわけではなく、上限が定められている。これは鉄道運賃の決定を事業者に任せておくと、消費者に良くない影響をもたらすので、政府が料金規制を行っている。講義では、後者について、つまり競争政策や直接規制政策を主に取り上げて説明している。

医療経済評価

医療経済評価とは、医療技術（医薬品、医療材料、検査・診断・治療など）の費用対効果分析のことである。医療技術の代替案について、効果と費用を評価し、比較することによって、効率性の観点からどの代替案が望ましいのかを判断する方法である。経済学の分野では費用便益分析が使われるが、この場合には費用も効果も金銭で評価される。しかし、医療の費用対効果分析の場合は、効果は金銭ではなく、生存年数や質的調整年（QALY）で評価されることが多い。また、医療技術の費用効果分析の結果が診療報酬を決めるために一部使われているのである。講義では、医療経済評価の方法の説明および政策への適用について講義している。

○研究していること

研究は、効率性や生産性を計測することと、それに関係するテーマについて行っている。水道事業と公立病院を主な研究の対象にしている。水道事業や公立病院の効率性を計測し、その効率性が補助金などの要因によって影響を受けているかどうかを分析している。最近では特に PPP/PFI が効率性にどのような影響を与えているのかについて関心がある。